

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17014

建築物名称	三菱ふそうトラック・バス株式会社 New Product Center at K1 Plant
建築主	三菱ふそうトラック・バス株式会社 生産本部 生産・計画統括部長 川崎 敏慈
建築物の所在地	川崎市中原区大倉町10番
設計者氏名、建築士事務所名	内田 浩 株式会社計画技術研究所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	11,682.41m ²
用途	事務所
構造	鉄骨造
階数	地上5階
工事完了年月	平成30年12月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三菱ふそうトラック・バス株式会社 New Product Center at K1 Plant	階数	地上5F
建設地	川崎市中原区大倉町10番	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	750 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,200 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2018年12月 竣工	評価の実施日	2017年7月14日
敷地面積	6,296 m ²	作成者	株式会社 計画技術研究所 内田 浩
建築面積	3,122 m ²	確認日	2017年7月14日
延床面積	11,682 m ²	確認者	株式会社 計画技術研究所 内田 浩



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

★ ★ ★ ★ ★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	79%
③上記+②以外の	79%
④上記+	79%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

音環境	2.8
温熱環境	2.7
光・視環境	3.5
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	3.4
耐用性	3.1
対応性	3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性・	2.5

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

建物外皮の熱負荷	3.2
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	3.8
効率的運用	3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	2.8
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.8
地域環境	2.8
周辺環境	3.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	-		
2 まちなみ・景観への配慮	外観パースにより良好な景観形成へ配慮している。	1.4/4.3	1.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	排熱を伴う室外機のほとんどをGL+10m以上に設置している。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標Rw0.64	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.8
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	Low-E複層ガラスを使用。		
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備	吹抜トップライトを採用。	0.5/0.7	3.1
3.2 3.2.1 昼光制御	ブラインドにより昼光を制御している。		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	-		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	排熱を伴う室外機のほとんどをGL+10m以上に設置している。	0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.95		
2 自然エネルギーの利用	-		
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.72	3.5/5.0	3.5
4 効率的運用	BEMS導入により用途別にエネルギー消費量が把握できる。		
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	主要水栓に節水型の器具を使用しており、かつ節水型便器を採用している。		
2 非再生性資源の使用量削減	-	2.8/4.7	3.0
3 3.2 フロン・ハロンの回避	全てノンフロン・ハロンの断熱材を使用している。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標Rw0.64	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	-	0.3/0.5	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	主要水栓に節水型の器具を使用しており、かつ節水型便器を採用している。	2.4/4.0	3.0
2 非再生性資源の使用量削減	-		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	管理用車両、荷捌き用駐車スペースの確保。	0.2/0.4	2.4
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	-		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	排熱を伴う室外機のほとんどをGL+10m以上に設置している。	0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.95		
2 自然エネルギーの利用	-		
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.72	3.5/5.0	3.5
4 効率的運用	BEMS導入により用途別にエネルギー消費量が把握できる。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標Rw0.64	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.7**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	-	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用	-	0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.95		
2 自然エネルギーの利用	-		
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.72	3.5/5.0	3.5
4 効率的運用	BEMS導入により用途別にエネルギー消費量が把握できる。		

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		基本設計段階				環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			全体
	G	W	R	H								
Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境												
1 音環境												
1.1 室内騒音レベル												
1.2 遮音												
1 開口部遮音性能												
2 界壁遮音性能												
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												
1.3 吸音												
2 温熱環境												
2.1 室温制御												
1 室温												
2 外皮性能												
3 ゾーン別制御性												
2.2 湿度制御												
2.3 空調方式												
3 光・視環境												
3.1 昼光利用												
1 昼光率												
2 方位別開口												
3 昼光利用設備												
3.2 グレア対策												
1 昼光制御												
3.3 照度												
3.4 照明制御												
4 空気質環境												
4.1 発生源対策												
1 化学汚染物質												
4.2 換気												
1 換気量												
2 自然換気性能												
3 取り入れ外気への配慮												
4.3 運用管理												
1 CO ₂ の監視												
2 喫煙の制御												

Q2 サービス性能					3.0	-	-	3.3	
1 機能性					3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	-	-	
1	広さ・収納性				3.0	0.33	-	-	
2	高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-	-	
3	バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性					4.0	0.30	-	-	
1	広さ感・景観			天井高さ:3.0m	5.0	0.33	-	-	
2	リフレッシュスペース			リフレッシュスペースを執務スペースの1%以上(2.4%)計画している。	4.0	0.33	-	-	
3	内装計画				3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計			○①:トイレの壁は、磁器質タイルを使用し、防汚性に配慮した仕上である。 ○②:トイレの床は、磁器質タイルを使用し、防汚性に配慮した仕上である。 ○④:壁掛型の便器としており、ホコリのたまりにくい設計としている。 ○⑤:風除室の自動扉は1m以上間隔をあけて配置されており、土砂等の進入を防ぐような配慮がされている。 ○⑥:異なる床材の接近がない。 ○⑩:屋外の金属部分は、錆止め塗装、SUSの採用等の防錆対策がある。 ○⑪:主要な管理動線にはスロープが設けられている。	4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.1	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	R			3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		外気取入れダクトはガルバリウム採用	4.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		給水:VLP→B、排水:VP→B、冷媒:冷媒用被覆銅管→C	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					3.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備			配管は吊り配管とし、地震時の損傷を抑えるよう配慮している。	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3	電気設備			非常用発電機の設置	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			耐震クラスはAクラスである。	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			ケーブルTV等による災害情報入手	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり					4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり			階高:4.7m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率:0.162	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出				G W H	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				G W H	2.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性										3.2				
LR1 エネルギー										0.40	-	-	3.5	
1	建物外皮の熱負荷抑制	W	H	BPI _m = 0.95					3.2	0.20	-	-	3.2	
2	自然エネルギー利用	W	H						3.0	0.10	-	-	3.0	
3	設備システムの高効率化	W	H	[BE][BE _m] = 0.72					3.8	0.50	-	-	3.8	
4	効率的運用								3.5	0.20	-	-	3.5	
集合住宅以外の評価									3.5	1.00	-	-		
4.1	モニタリング	W	H	用途別にエネルギー消費量が把握できる。					4.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制	W	H						3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価										-	-	-	-	
4.1	モニタリング	W	H							-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	W	H						-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル										0.30	-	-	3.0	
1	水資源保護	W	R						3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1	節水			節水型便器の採用					4.0	0.40	-	-		
1.2	雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無								3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無								3.0	0.30	-	-		
2	非再生性資源の使用量削減								2.8	0.60	-	-	2.8	
2.1	材料使用量の削減	W	R						2.0	0.11	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用	W	R						3.0	0.22	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R	-					3.0	0.22	-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R	-					1.0	0.22	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材	W	R						-	-	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	W	R	OAフロアの採用					5.0	0.22	-	-		
3	汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	-	-	3.0	
3.1	有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-	-		
3.2	フロン・ハロンの回避								3.0	0.70	-	-		
1	消火剤	W							-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	W							3.0	0.50	-	-		
3	冷媒	W							3.0	0.50	-	-		
LR3 数地外環境										0.30	-	-	3.2	
1	地球温暖化への配慮	W		ライフサイクルCO2排出率: 79%					3.8	0.33	-	-	3.8	
2	地域環境への配慮								2.8	0.33	-	-	2.8	
2.1	大気汚染防止								3.0	0.25	-	-		
2.2	温熱環境悪化の改善	G	W	H					3.0	0.50	-	-		
2.3	地域インフラへの負荷抑制								2.2	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減			R					3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制			R					3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制			R					2.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制			R					1.0	0.25	-	-		
3	周辺環境への配慮								3.0	0.33	-	-	3.0	
3.1	騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-		
1	騒音								3.0	1.00	-	-		
2	振動								-	-	-	-		
3	悪臭								-	-	-	-		
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制								3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制								-	-	-	-		
3	日照障害の抑制								3.0	0.30	-	-		
3.3	光害の抑制								3.0	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								3.0	0.70	-	-		
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-		